環境保全協定に基づく「環境保全計画書」

令和８年度環境保全計画書

株式会社阪急阪神百貨店

神戸阪急

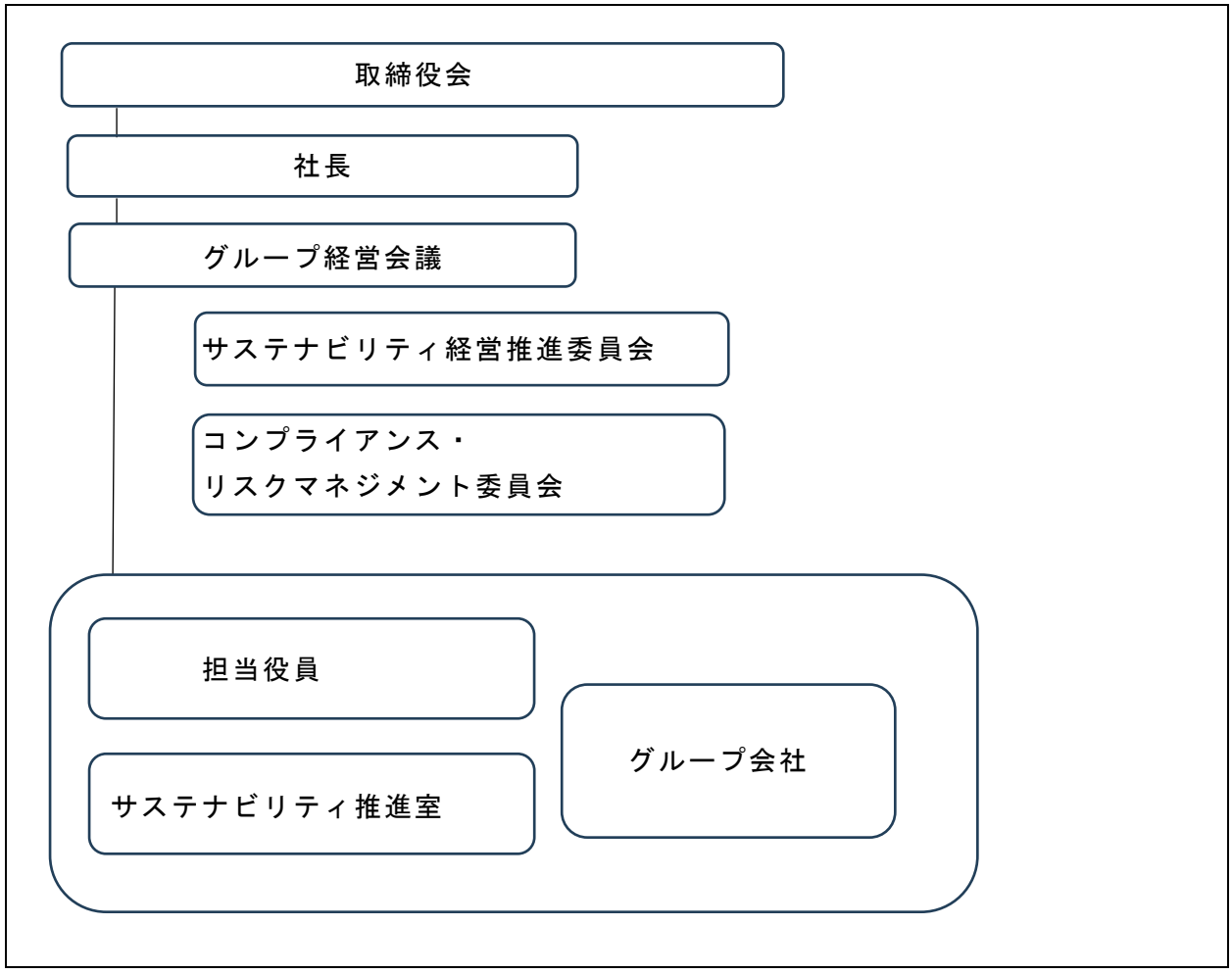
① 環境保全に関する基本方針(基本理念)

エイチ・ツー・オーリテイリング株式会社グループ企業の基本理念

「地域住民への生活モデルの提供を通して、地域社会になくてはならない存在であり続けること」をグループの基本理念とし、お客様及び株主の皆様をはじめ、お取引先、従業員といったステークホルダーの期待にお答えするとともに、社全体に対し貢献することが企業としての存在意義であると考えています。

② 気候関連課題マネジメント体制は図 1 のとおりです。 また、株式会社 阪急阪神百貨店 神戸阪急における環境・社会貢献管理体制は図 2 のとおりです。

図 1

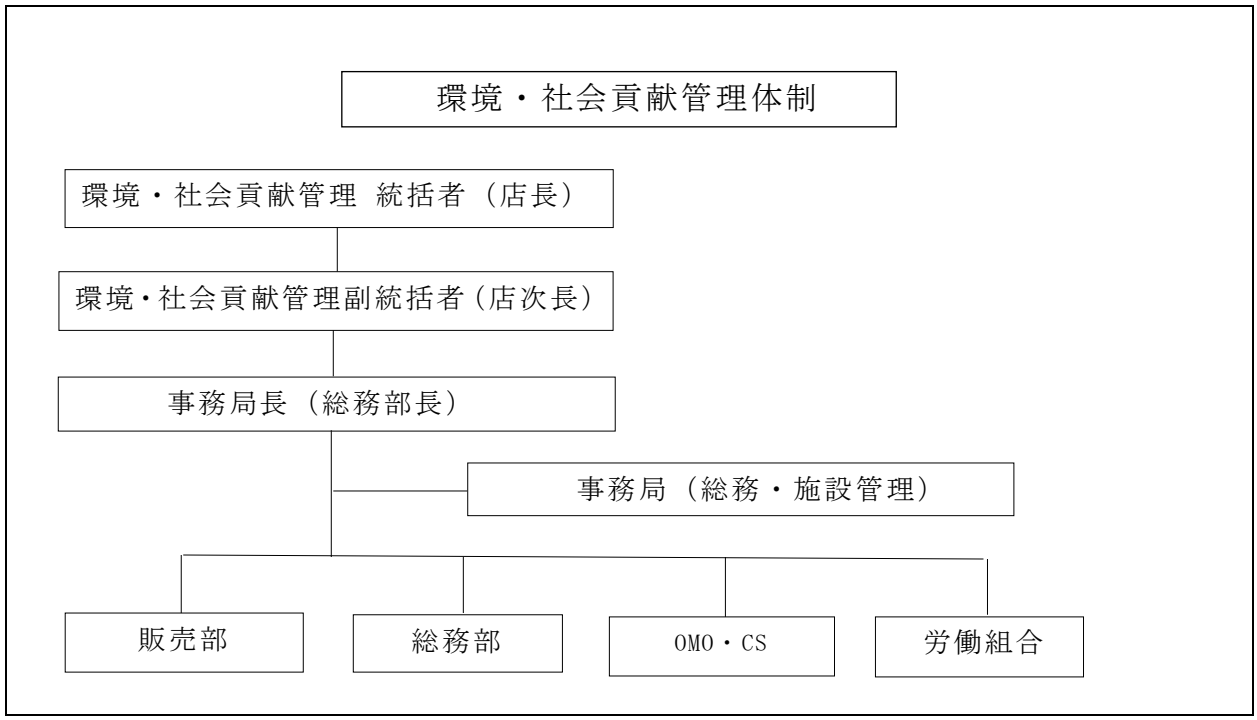


気候変動への取り組みについての情報開示

気候変動に関連した情報開示として、ＣＤＰ2025（気候変動）に回答しました。当社グループの気候関連課題に対する認識や組織体制、気候関連の機会やリスク、温室効果ガス排出量、排出削減に向けた取り組みを開示し、「Ｂ」ランクの評価を受けました。

2022 年 6 月に、当社グループは、気候変動関連財務情報開示タクスフォース（ＴＣＦＤ）に賛同致しました。
ＴＣＦＤ提言が推奨する開示項目に沿って、気候関連課題に関する情報を開示してまいります。
温室効果ガス排出量算定範囲の拡大・第三者保証取得
当社グループは、スコープ 1、2 に加え、初めてスコープ 3 の温室効果ガス（ＧＨＧ）排出量の算定を行っています。また、データの信頼性向上のため、2021 年度のエネルギー使用量、ＧＨＧ排出量（スコープ 1、2、スコープ 3 カテゴリ 1）については、デロイト トーマツ サステナビリティ株式会社による第三者保証を取得しています。

図 2



③ 重点取組目標・計画

当社の活動

株式会社 阪急阪神百貨店 神戸阪急では、エイチ・ツー・オーリテイリンググループの環境方針に基づき、お客様とともに進める環境・社会貢献活動を具体的に「重点テーマ・取り組み」として設定し、日々の活動指標としています

●カーボンニュートラルに関する取り組み

◆省エネルギー化の推進

＜目標＞燃料、電力の使用量を２０１３年度比で、２０３０年度中に４８％削減します。

＜取り組み内容＞

当社グループのフラッグシップ店舗である阪急うめだ本店及び阪神梅田本店、西宮阪急では、使用電力の１００％が再生可能エネルギーです。博多阪急でも一部を切り替えている他、グループ内においては阪急オアシス吹田 SST 店やイズミヤデイリーカナート北助松店など複数店舗で再生可能エネルギーへの切り替えを進めています。

◆温室効果ガスの抑制

＜目標＞中長期の温室効果ガス（GHG）排出削減目標を設定しました。

２０３０年度➡３０％削減（２０１９年比）※２０１３年度比４８％削減相当

↓

２０５０年度➡ネットゼロ

＜取り組み内容＞

・照明の LED 化の推進

・冷凍リーチインショーケースの導入

・省エネ制御機器の導入

●プラスチック提供量の削減推進

●廃棄物再資源化１００％の継続維持

●スマートラッピングの推進

●営業活動における資源有効活用

●社会貢献推進

④ 地球温暖化対策に係る計画

ア．前年度の電気・燃料等の使用量及び今年度使用予定量

活動の区分	燃料・焼却物等の種類	前年度使用量等	今年度使用予定量	単位	単位発熱量(MJ)	排出係数	排出量	
							前年度（実績）	今年度（予定）
燃料の使用	原料炭			kg	28.9			
	一般炭			kg	26.6			
	A 重油			ℓ	38.9			
	B 重油			ℓ	41.8			
	C 重油			ℓ	41.8			
	LPG			kg	50.1			
	都市ガス	160，190	158，588	m^3	40.0	0.0513	328，924	325，635
	その他（廃棄物等）			kg	42.3			
電気事業者から供給された電気の使用	一般電気事業者	13,569,243	14,751,071	kWh	8.64	0.415	5,960,159	5,900,557
熱供給事業者から供給された熱の利用				MJ				
合計							6,289,083	6,226,192

イ．基準年度及び前年度の二酸化炭素排出量、今年度及び目標年度の二酸化炭素の排出削減目標（その他温室効果ガスが発生している場合はその排出量、排出削減目標も含む。）

温室効果ガス	削減目標		排出量		削減率（%）	
	今年度 (a)	2030 年度 (b)	基準年度 (2013 年度) (c)	前年度	今年度	2030 年度
二酸化炭素	6,226,192	5,185,200	7,867,400	6,289,083	20.9%	34%
メタン						
一酸化二窒素						
HFC						
PFC						
六フッ化硫黄						
合計	6,226,192	5,185,200	7,867,400	6,289,083	20.9%	34%

※削減率・今年度(%)＝｛(ｃ)－(ａ)｝/(ｃ)・2030 年度（%）＝｛(ｃ)－(ｂ)｝/(ｃ)

ウ．目標達成のために講ずる措置・対策

措置の区分	具体的対策	削減目標
エネルギー使用の合理化	室内温度管理の適正化	電力消費量を 2025 年度比１％削減する。（C02 排出量１％削減）
	照明のＬＥＤ化	
特定フロン等使用量の削減	設備更新時、特定フロン非使用設備を導入	100%
	特定フロン使用機器の適正廃棄	100%

公害防止対策及び地球温暖化対策以外の環境保全活動に係る計画
公害防止対策、地球温暖化対策以外の環境保全活動に係る目標、計画
（目標達成年次 2025 年度中）

	分　　野	項　　目	目　　標
1	事業所等での廃棄物の適正処理・減量	分別廃棄	徹底
		魚腸骨、生ゴミの食品リサイクルの推進	前年比 100%
		コピー用紙の使用削減	前年比 95%
		ミスコピー用紙の再利用	徹底
2	事業所等での再生品等の使用	プリンターカートリッジの再生利用	実施率 100%
		再生紙の使用促進	実施率 100%

	分　　野	項　　目	目　　標
3	自動車対策	エコドライブ・アイドリングストップの推進 ※エコドライブは社用車のみ	社用車及び搬入車両実施率 100％
4	営業活動における資源有効利用	紙袋・包装紙の削減	前年比 5％削減
		簡易包装・スマートラッピングのお勧め	徹底
5	プラスチックに係る資源循環等の推進	排出されるプラ製品(ペットボトル･発泡スチロール･ハンガー)等の回収・リユース・ リサイクル推進	前年比 100％
6	地域社会への参画	事業所周辺の清掃活動	参加人数延べ 65 人
		地域の環境保全活動への社員派遣	参加人数延べ 18 人